

地域医療連携室

# フレンドリーだより

*Community medicine cooperation room*



看護師国際交流 (H24.7.18~27)



**2012**  
**vol.41**

H24.9 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : [friendly@med.kurobe.toyama.jp](mailto:friendly@med.kurobe.toyama.jp)

# 「周術期の口腔機能管理」が 新設！



歯科口腔外科 部長 高桜 武史

がんの治療のために化学療法や放射線治療を行うと、治療途中や治療後に様々な副作用が発生します。なかでも口腔に関しては「口腔乾燥」や「口内炎」、「味覚障害」、「嚥下障害」などが挙げられます。がんの治療と口の健康は、切り離しては考えられない問題です。がんの治療中に口のトラブルのため食事が摂取できなくなり、がんの治療を中断する事態に陥ることもあります。

平成24年度診療報酬改定により、「周術期の口腔機能管理」という項目が新設されました。内容は頭頸部・消化器がん、心臓血管外科等の全身麻酔での手術を受ける患者に対し、術前には口腔清掃（必要なら応急的な歯科治療も）、それに加え術後には咀嚼や嚥下などの口腔機能の向上を図り、経口摂取・栄養の改善につなげます。これによって、誤嚥性肺炎等の合併症を予防し、回復を促すことによって在院日数の短縮やQOLの向上を期待するものです。手術だけではなく、口腔領域に障害を生じる放射線治療やがん化学療法を受ける患者も管理の対象となります。

流れとしてはまずは手術、放射線治療や化学療法の実施前に担当医師からの依頼を起点として、歯科医師が口腔状態を診察し、がんの治療中に悪化しそうなむし歯や歯周病の治療を行います。もちろん、当院でも歯科治療を行うこともできますが、以前から通院されている歯科医院でも治療は可能です。ただし、がん治療前ということもあり、短期間でできる歯科治療はある程度限られます（図1参照）。

がん治療による免疫力の低下に伴い、歯が原因の感染症や口腔粘膜障害（口内炎、カンジタ症、歯肉出血）の危険性が高くなります。がんの治療中に口腔状態が悪化して食事摂取困難となったり、感染を合併してがんの治療自体が中断するというのを避けなければなりません。最新の調査では、治療前にしっかりと口腔管理を行うと、治療中の合併症が有意に減少することがわかってきています。

また、最近問題となっているビスフォスホネート製剤関連顎骨壊死に対しても、事前の口腔管理が重要となっています。骨転移治療薬で起こるケースが大半ですが、まれに骨粗鬆症予防薬でも発症することがあります。投与前にぜひ一度歯科医院へ受診するようお願いします。

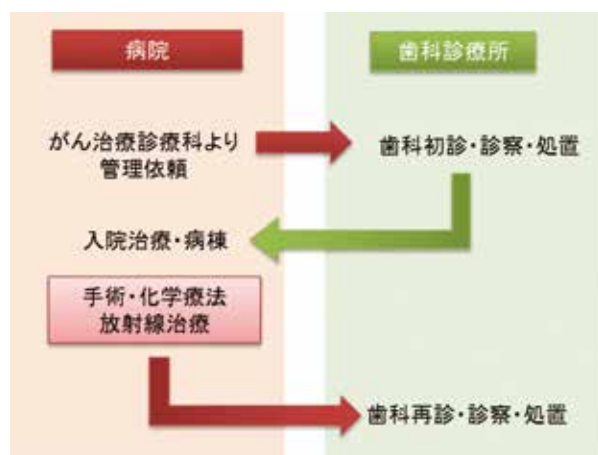


図1. 周術期口腔機能管理の流れ

## 緩和ケア認定看護師としての 今後の目標



かんわ支援室 師長 高山 由紀子

フレンドリーだよりに載せていただくのは今回で2度目になります。1度目は緩和ケアチームの専従看護師としてかんわ支援室に配属になった平成21年でした。かんわ支援室が新設になったこともあり、かんわ支援室の紹介をしていたように思います。今回は、新米認定看護師ですが、私自身を紹介させていただく機会をいただき有難うございました。

平成21年に緩和ケアチーム（名称はがんサポートチーム）専従看護師としてかんわ支援室に配属になり、がん患者さんとご家族との関わりを続ける中で、全人的なアセスメント力が弱く適切な症状緩和や生活支援者である看護師としてのケアの提供ができていないという自分の弱みを感じていました。そこで、〇歳という十分すぎる成人年齢に達していましたが、病院の支援もあり緩和ケア認定看護師教育課程を受講することができました。緩和ケアに関わる座学や演習では、新しい知識や技術を習得することができ充実した日々を過ごしていましたが、臨地実習では全人的なアセスメント力の難しさを感じ、お恥ずかしながら何度か涙を流したことを思い出します。担当教諭と同期生に助けられ、なんとか教育課程の修了証を手にすることができ、認定審査を経て7月に認定看護師となることができました。〇十年ぶりに学業に専念できた7カ月間は、看護師としてのこれまでの自分のあり方を振り返りながら、看護師という職業が改めて素敵な職業であると感じることができた貴重な時間であり体験であったと思います。

今後の緩和ケア認定看護師としての活動としては、まず、緩和ケアチーム専従看護師としてがん患者さんとご家族の身体的、精神的な苦痛の緩和を図る支援を主治医、担当看護師と共に行っていきたいと考えています。病気を抱えている患者としてその方をみるのではなく、それまでの生活の過程や患者さん自身が大事にしている価値観を少しでも理解できるよう関わりを持ち、患者さんの「人となり」を尊重した支援ができればと考えています。そのためには、私の持つ価値観やものさしで患者さんとご家族の生活や価値観を考えるのではなく、フラットな気持ちで一人ひとりの思いに寄り添えるよう自分自身のケアも大切にしたいと思っています。また、院内の緩和ケアの質の向上を図る活動として、院内看護師を対象とした緩和ケア教育の企画や運営、病棟や外来看護師からの緩和ケアに関わる相談対応を積極的に行っていきたいと考えています。

緩和ケア認定看護師には、地域に向けた活動の1つとして自宅療養をされている患者さんへの関わりとして、ご自宅への訪問看護の同行に対しての診療加算が新設となっています。がんに関連する様々な症状を抱えながら在宅療養をされている患者さんとご家族の生活を訪問看護師の方々と共に支える役割も求められていることに身が引き締まる思いがします。病院から在宅療養へ移行される患者さんとご家族が安心して自宅に戻ることができるよう、病院と地域の看護師間の連携を深めるための体制づくりを地域の看護師の方々と共に行っていきたいと考えています。よろしく申し上げます。

## 透析看護認定看護師としての 今後の目標



腎センター 主任看護師 草切 幸

私は、今年の7月に透析看護認定看護師の資格を取得しました。透析看護は、29万人を超える透析患者を対象とする領域です。現在、当院腎センターには150名近くの血液透析患者が受診し、平均年齢は高齢傾向にあり、最高齢は90歳代です。うち糖尿病患者は、3分の1を占めます。当院腎センターでも、腎不全看護の課題である高齢透析患者、糖尿病患者、長期透析患者の増加により合併症をもつ透析患者が増加しています。また、透析機器の高度化など業務内容が複雑化し、より質の高い看護が求められています。このような状況下で、私は、今までにたくさんの患者様から透析看護を学ばせて頂いたと思っています。

私が認定看護師を目指したきっかけは、糖尿病性腎症の悪化から血液透析導入にいたった受け持ち患者様より、「糖尿病で通院中、担当医から、このままの管理だと透析をしないといけないよと言われ続けていた。透析って何？自分には関係がないと思っていた。あの時に透析のことをもっとよく知っていたら、今の自分ではなかったのではないかと思う」という訴えから透析看護について考えさせられました。この患者様の一言から透析をする前から患者様自身の腎臓が、今どの状態にあるのかを指導する看護がしたいと考えるようになりました。また、慢性腎疾患（CKD）ステージ分類ごとの看護をする必要があると考えました。

私は、現在腎センターに勤務しています。週2～3回顔を合わせている患者様、そのご家族とは、日々腎不全ときちんと向き合い、セルフマネジメントができるようにコミュニケーションをとりながら看護を進めています。患者様、ご家族に対して、教育の意義は、知識を深めるだけではなく、経験を通じて常に自分を成長させていきたいと感じながら看護を提供しています。そのような中、今後以下の4つの事について取り組んでいきたいと考えています。

1. 当院は、県内でも多くの糖尿病患者様の治療を行っています。糖尿病療養指導士との連携を図り、糖尿病患者様の腎不全への移行を防ぐためのシステムを作る。
2. 慢性腎疾患（CKD）ステージ分類ごとの指導により、透析導入までの期間を長くする看護を組織的に定着させる。
3. 慢性腎疾患（CKD）患者様に対し、療法選択についての情報を提供することで、患者様の意思決定を促し、透析受容や療養生活に対する患者様の主体性、ひいては生活の質（QOL）の向上を目指す。看護師が時間をかけて行うことで、患者様の不安の軽減や、生活状況を知ることにより、よりその人らしい生活ができる治療法選択ができることに努める。
4. 血液透析以外の腹膜透析を治療の選択肢とすることができる環境を作る。

今後も患者様からの学びを念頭に置き、質の高い透析看護の実践、指導、相談に応えられるよう活動していきたいと思っています。ご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

## 退院支援研修会

去る6月16日、富山県新川厚生センター主催による「退院支援研修会」が黒部市民病院講堂において開催されました。講師に「在宅ケア移行支援研究所」宇都宮宏子先生を迎え院内外より医師、看護師、ソーシャルワーカーなど退院支援に関わる関係者約90人の参加がありました。

研修内容は午前には講義として、なぜ今退院支援が必要なのか、退院支援の3つのプロセス、退院支援に必要な知識などについて、午後には終末期患者の在宅療養に対する支援について事例検討会をグループワークを通して行いました。

退院支援の日頃抱える共通の悩みや知恵などを出し合ったグループワークでの結果について、講師の宇都宮先生よりアドバイスをいただき、改めて在宅療養に対する強い使命感を確認したとの参加者からの意見がありました。今後は更なるスキルアップを目指し、今年度と合わせて3年間にわたって新川地区における退院支援研修会が予定されています。



## 看護師国際交流

当院は、2003年に黒部市と姉妹都市関係にある米国ジョージア州メーコン市のマーサー大学医学部ならびに中央ジョージア医療センターとの間で、医療分野に関する国際交流の協定を結びました。2007年からは当院から中央ジョージア医療センターに看護師を派遣して米国の医療を体験しています。2010年からは米国の看護師の訪問を当院で受け入れるようになりました。昨年に引き続き今年もMs.karenとMs.Chaka McGruderの二人を7月に招請しました。滞在中、院内各部署で看護業務を見ていただきました。また院内講演会では、米国における小児病棟での検査において、子供に与える心的外傷症候群



をなくすといった目的で使用する鎮静剤治療について、病院運営のための体制について、看護師教育についての紹介がありました。アフターファイブには院外でも楽しく交流し、相互に理解を深めることができました。このような国際交流は国内ではめずらしい取り組みですが、当院の魅力として今後も取り組んでいく予定です。

## 院内講演会

去る8月8日17時30分より当院栄養サポート委員会主催による院内講演会が開催されました。講師には山中温泉医療センター長・大村健二先生を迎え、「がん患者の栄養管理」一周術期および化学療法時と題し、がん患者ならびに高齢者などの従来考えられていた栄養管理に加え、医療行為がもたらすQOLについても自らの経験も踏まえて話されました。聴講者を飽きさせないユーモアあふれる講演でした。



## 新任医師紹介

平成24年7月1日付

### 脳神経外科



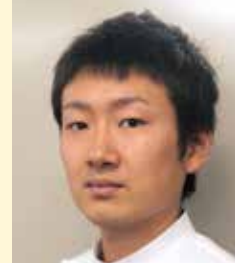
部長  
栗本 昌紀

### 泌尿器科



医員  
飯田 裕朗

### 臨床研修医1年生



さかした やす ひろ  
坂下 泰 浩

## 講演・勉強会のご案内

### 1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日  
午後6：30～  
午後8：00

場所：本館3階 指導室

### 2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日  
午後6：45～  
午後7：45

場所：本館3階 指導室

### 3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日  
午後6：40～

場所：本館3階 指導室